**「連携型個別の指導計画のポイント（**特別支援学級と原学級との連携）**」**

〇特別支援学級の児童生徒で交流及び共同学習が行われている場合はこの形式で計画してみましょう。

**「連携型個別の指導計画を作成するには」**

・学校生活の中で交流及び共同学習が可能な場面，教科等を考えます。

・本人や保護者のニーズを把握します（願い）。

次に，実態を踏まえて目標を設定します。本人の目指す姿や学びのほかに，原学級の子どもたちの目指す姿や学びについても検討します。

目標に照らし合わせ、再度場面ごとの学びの場を検討し、決定します。それぞれの場での指導のねらい、指導支援内容、その役割分担や協力体制についても話し合います。合理的配慮、評価基準も明らかにしておきます。

指導を実施し，評価します。その子の目標の達成状況を具体的に評価します（個人内評価）。さらに，目標設定や指導支援の内容，学びの場の妥当性についても評価しましょう。原学級の子どもたちについても同様に評価します。評価をもとに，随時改善や変更を行います。

学期末，学年末に再度集まって評価について話し合います。特別支援学級と通常の学級とで合わせてどのような学びがあり，成長が達成されたのかということを決めだします。同様に原学級の子どもたちの成長についても評価を行います。

子どもの成長だけでなく，指導支援の評価も同時に行います。これを踏まえて今後の計画を立てます。担任，教科担任が共通して有効と考えた支援については引き継ぎ，次年度みんなで行うようにしましょう。

**「連携のポイント」①**

学校生活の中で，共に学べる可能性の検討をしましょう。具体の場面を考え，前向きに，しかし無理のない学びの場を柔軟に考えましょう。一日あるいは一週間の生活をその子の立場に立って通してみる視点も大切です。

まずは，担任同士が話し合ってみましょう。担任同士の意見交換，情報交換により，計画の立案がスムーズになります。

**「連携のポイント」②**

　特別支援学級で行われている支援はそのまま通常の学級で行うのは難しい場合もあります。

集団の中で学べることを明確にし，支援情報を積み重ねていきましょう。評価からさらに交流及び共同学習の内容を検討しましょう。



**「担任・担当同士の連携から」**

原学級の担任，教科担当と特別支援学級の担任との連携により，周囲の子どもたちへの理解が深まります。また，その子への支援は他の子の支援にも生かせることが多く，互いの授業改善にもつながります。